

アカテガニ

アカテガニ(赤手蟹、学名 *Chiromantes haematocheir*)とはエビ目(十脚目)・イワガニ科に分類される中型のカニの一種である。

分布

東アジア(中国大陸、香港、台湾、朝鮮半島、日本)に分布する。日本では本州から南西諸島までに分布し、海岸や川辺に多く生息する。

形態

成体は甲幅35mm、甲長25mmほど。頭胸甲は厚みのある四角形で、複眼の下に甲側面には鋸歯がない。鋏脚は左右ほぼ同じ大きさで上面が和名通り鮮紅色、鋏部分は黄白色をしている。甲の背中側中央には微笑んでいるような赤い線があり甲羅の上半分は黄色-橙色、甲羅の下半分と脚は灰褐色をしている。

オス成体は鋏脚が大きく発達し、鋏部分が湾曲して噛み合わせに隙間ができる。メスは鋏脚が小さく、体色が全体的に淡い。また、若い個体はオスメスとも全身が淡黄褐色をしている。

生態

海岸や川辺の岩場、土手、石垣などに多く生息する。カニの中でも乾燥に適した種類で、クロベンケイガニやベンケイガニよりも高い場所に棲む。高所に登る習性があり、生息地付近では春から秋にかけて人家に侵入したり網戸や木によじ登る姿も見られる。

深さ数十cmに達する巣穴を自分で掘ることもあるが他個体や他種の掘った巣穴、または石の隙間をそのまま利用することも多い。人が近づくとそれらの隠れ家に逃げこむが特に決まった巣や縄張りなどはなく、最も近い隠れ家に素早く隠れる。また、逃げきれない場合は鋏脚を大きく振り上げて威嚇行動を行う。冬は温度差の少ない巣穴の底にひそんで冬眠する。

昼は巣穴や物陰に潜み、夜に活動する。食性は雑食性で、動物の死骸から植物まで何でも食べる。捨てられた生ごみに群がったり、水田のイネの葉を食べたり、素早い動きで小魚や昆虫、フナムシなどを捕食することもある。天敵はイノシシ、タヌキなどが時に共食いすることもある。

カニは鰓呼吸をするので水がないと生きていけないがアカテガニは鰓呼吸した水を口から吐き出し、腹部の脇を伝わせて空気に触れさせ脚のつけ根から再び体内に取り入れている。この水の循環ができるためわずかな水で生きていくことができ、むしろ水に長時間浸かっていると溺れて死んでしまうほどである。ただしこれを長く繰り返せば水が蒸発して少なくなりさらに体液なども混じった水は粘りけが出てくるため、口から「泡を吹く」ことになる。

生活環

アカテガニは陸上生活に高度に適応しているが、成長過程で一時的に海中で生活しなければならない。

春から夏にかけて交尾の終わったメスは産卵し、0.5mm足らずの小さな卵を腹部にたくさん抱え孵化するまで保護する。やがて胚発生の進んだ卵は黒褐色になり、中に小さな黒い複眼が見えるようになる。黒褐色の卵を抱卵したメスは海岸に多数集まってくる。

7-8月の大潮(満月か新月)の夜、満潮の時間に合わせてメスが海岸に集合する。メスが体の半分くらいまで海水に浸かって体を細かく震わせ、腹部を開閉させると同時に卵の殻が破れてゾエア幼生が海中へ飛び出す。

煙のように泳ぎだした無数のゾエア幼生は引き潮に乗って海へと旅立つ。ゾエア幼生は体長2mm足らずで、頭が大きいエビのような形をしている。海中を浮遊するプランクトン生活を送り植物プランクトンなどを捕食しながら成長するが大部分は魚などに食べられてしまい、生き残るのはごくわずかである。

ゾエア幼生は3-4週間の浮遊生活の間に5度の脱皮を経るとメガロパ幼生という形態に変態する。メガロパ幼生は脚が長くなってカニらしくなり、海底を歩くことができる。メガロパ幼生は秋頃に沿岸部に近づき、小ガニへの変態を終えた個体から上陸する。

上陸後1-2年はオスメスとも全身が淡黄褐色だが、成長すると鋏脚が赤く色づく。2年目には繁殖に参加し、寿命は数年-十数年ほどとみられる。

アカテガニ



分類

界:	動物界 Animalia
門:	節足動物門 Arthropoda
亜門:	甲殻亜門 Crustacea
綱:	エビ綱(軟甲綱) Malacostraca
目:	エビ目(十脚目) Decapoda
亜目:	エビ亜目(抱卵亜目) Pleocyemata
下目:	カニ下目(短尾下目) Brachyura
群:	方頭群 Brachyrhyncha
上科:	イワガニ上科 Grapsoidea
科:	イワガニ科 Grapsidae
亜科:	ベンケイガニ亜科 Sesarinae
属:	アカテガニ属 <i>Chiromantes</i>
種:	アカテガニ <i>C. haematocheir</i>

学名

Chiromantes haematocheir
(De Haan, 1833)

和名

アカテガニ(赤手蟹)

英名

Red claws crab, Red hand crab

